

平成29年11月9日

### 第3回学校運営協議会

#### 【学校運営協議委員】

委員	近藤 力	事務局長	田 苗 隆 男
委員	廣瀬 雅一	事務局員	與 田 顕 規
委員	橋本 祐一	事務局員	小 嶋 隆
委員	竹内 功	事務局員	吉 川 英 昭
委員	笹原 史裕		

#### 1 事務局長挨拶

9月初旬に北海道知内高等学校通学区域規則拡大についての報道発表がありました。その後、平成30年度入学生からの全国からの公募について、問い合わせ等もきています。教育界の大きな流れの一つに学習指導要領の改訂があります。高等学校は平成34年度より年次親交で実施されていく予定です。伴って本校では、平成30年度の入学生より教育課程を大きく変更します。従前のコース制の良さを生かしつつ、単位制（選択制）の良さを複合し「ハイブリット型教育課程」ということで進めてきました。

多様な人物との交流、多様な進路への対応ということも念頭に置きながら、改革を進めてきております。

10月には、知内町、町政50周年ということで式典や催しがありました。その式典の司会を本校3年生女子生徒が務めました。また、伝統芸能の披露ということで、本校生徒の代表者30名がねぶた囃子を披露しました。昨年度から実施している、ねぶた囃子の復活という本校のプロジェクトを町の行事で披露できたことは良かったです。

10月14日から19日までの5泊6日の海外見学旅行が無事終了いたしました。現地の天候も良く、体調を崩す生徒もいませんでした。最終日に熱中症になった生徒が出ましたが、帯同した添乗員の方々や現地のコーディネーターの方々の迅速な対応により、体調が戻り同じ行程で戻ってきました。現地では、異文化に触れる感動と、聞きとること、伝える事の面白さと大変さを十分に味わってきました。昨年は海外の諸事情で断念しましたが、今年度は実施できたということで、次年度以降も実施する方向で進めて参りたいと思います。

3学年の進路状況ですが、概ね順調です。就職を目指す生徒は一段落しました。現在は大学進学を目指す生徒が学習に力を入れております。

今後はいよいよ入試に関する業務が増えて参ります。様々な本校での取り組みをHP等を通じて発信していきたいと思っております。

#### 協 議

##### (1) 全国公募に係わる動きについて

全国公募に係わり、北海道新幹線沿線の道外、青森県の中学校訪問にいつて参りました。本校から2名と教育委員会から1名、計3名で青森市内60校を訪問しました。

訪問して実感したことは、函館方面には目が向いているということです。青森県内で

入試を実施している函館市内の私学もあるそうです。また、道内の高校にも進学する生徒がおり、苫小牧にアイスホッケー等を目指して進学する生徒もいるということがわかりました。現状としては、北海道や道南に目が向きつつも、知内町や知内高校はまだまだ未知であるということです。ただ、町立高校ちう点には興味を持っていただきました。町立高校については、全国で18校しかなく、北海道に17校が存在します。町立高校の良さを説明すると、感嘆していただく場面が多々ありました。パンフレットの出来や海外見学旅行については興味を持っていただきました。訪問した中学校の7割近くの学校は校内にPRして下さるとのことでした。こういった地道な訪問をきっかけに本町や本校の良さが伝わっていけばと思います。

現在道外からの問い合わせが3件来ております。道内の方は例年通りに説明会、中学校訪問を実施しております。知内中学校については例年より早めに実施しました。2回実施しましたが、アンケートの結果、7割の生徒が本校の印象が良いという風に回答してくれました。福島中学校、木古内中学校でも説明会を行いました。特に福島中学校では、説明会の日程が本校の海外見学旅行中であったこともあり、現地との中継を行いました。

本校で実施する学校説明会は、7月(70名)と9月(50名)の2回実施しました。2回目には道外からも参加者がいました。

説明会以外では、管内の中学校からも本校の見学に来ております。部活動や行事に興味を持って見学に来てくれています。

## (2) 1学期成績について

### 事務局員

1学期期末考査の結果について説明します。中間考査より継続して成績不振となった生徒は、1年生1名のみでした。今回の考査で新たに成績不振となった生徒は、2年生3名のみです。29点以下の考査点数の生徒数も、昨年度は45名、今年度は27名ということで大幅に減少しております。考査前の学校全体での雰囲気づくりや先生方からの啓蒙、家庭学習が成果として出ていると思います。

### 事務局員

学習に対する支援生徒が2名おりますが、学習支援員の協力の下、計画的に放課後学習を進めております。また、今回成績不振生徒となった生徒は次回の考査1週間前には自習室を設けて、自主的な学習を支援していきたいと思っております。

## (2) 進路決定状況について

### 事務局員

現在の進路決定状況は資料の通りとなりますが、概ね順調です。今年度の特徴としては、あすなる学園様や林業のウッドファミリー様といった町内に就職した生徒がいます。

## 事務局員

ハイブリット型教育課程という、教育課程の刷新に伴い教員の負担は増加していくかと思えます。しかし、町立高の強みでもあります、通常よりも多く配置されている常勤講師の先生方にも活躍をしていただいて授業内容の充実をさせていただきます。特に英語教育については拡充していく予定です。

## 事務局員

また、次年度からの総合学習の組み直しにも着手しております。地域創生プログラムについてです。今年度1学年で実施したソクラテスマーティングを活かし、知内町という地域を高校生の目線で学び、体験をしていくという試みを考えております。次年度の1年生を対象に、15時間ほどを教科と横断しながら活用し、就業体験を含めた総合学習にします。第一次産業の林業農業等中心にしたものや、しおさい園やあすなろ学園を中心とした福祉学習、道の駅や公民館、カキ小屋等の観光・・・などのグループに分かれて1年間を通して学習し、2月くらいに発表までできればと考えております。地域を知り、学び、貢献する人材の育成と知内町のPRも含めた活動になるように、ソクラテスに協力していただいた皆様にもご負担をおかけしますが、よろしくをお願いします。町の地域創生推進室とも連携していきます。また企画としては、役場を中心に、道内各所にて開催されている知内町フェアにも高校生が絡んでいければと考えています。

この総合学習の組み直しについては、生徒が行った活動を、進路や将来に具体的に紹介できたり、実務的な力となるようにという願いもあります。大学入試等でのボランティアや総合学習の取り組みの聞き取りは多くなってきており、提出書類の記載する欄も拡大傾向にあります。

11月には福島町、福島商業での課題研究発表会に、イメージづくりとして本校の先生方に参加してもらいます。12月以降には、次年度に向けて町内の企業や関係諸機関にご挨拶に伺う予定です。

## 委員

今後の高校の取り組みとして、ハイブリット型教育課程は渡島では初の試みということで非常に楽しみです。高校生が進路の面で、コース等に縛られて、変更した進路に単位の面で履修しておらず苦しむことがあるとも聞きます。こういった事にも、対応しようとしている高校の計画している、ハイブリット型教育課程はどこでもやれることでもないのでPRとしては良いと思えます。あとは、中学校3年生のニーズや意識と、この教育課程のPRの仕方を合わせていく作業が重要ですね。

あと、海外見学旅行での大学訪問は生徒にとって刺激があって良いと思えます。見学旅行は2年生ですが、キャリア教育や英語教育などの、良いことは1年生の早いうちからどんどんやっていると良いと思えます。

様々な計画があり、実行できれば素晴らしいですね。実際に負担していくのは先生方であり、高校の先生方が若いということは、前に進む力にもなりますが、経験不足としての不安要素としても受け取られます。成長する生徒の姿を通してPRできれば

いですね。

生徒募集の面では、他府県から本校を受検する生徒がいるかもしれないという可能性の中、大変注目を浴びるチャンスかもしれません。若い人たちの力がこういったところでも大切になります。今後の高校の取り組みは、冒険でもありますが、協力したいと思います。

#### 事務局員

現在、大きく広がっている学力の幅は狭くなっていく可能性があるかどうかはわかりません。しかし、知内町としての学力向上にも高校がしっかりと乗り、選ばれる高校として義務教育から信頼されて進んでもらえるという意識を持ち、進学のできる高校として進めていければと思います。

特に学習の意義を考えさせ、考査にとらわれて、学習の強弱が出ないようにしたいと思います。あくまでも進路、就職、進学という中長期的な意識で学習をさせたいです。

#### 委員

大きい、小さいの関係なく、様々な企業や職種を経験することは有意義であると思います。知内町で過ごし、知内高校を卒業したことにプライドを持てるような学校にしていく必要があると思います。

#### 事務局員

全国公募に恥じない在校生の教育をしてければと思います。見られているという意識は今まで以上に大切であると感じています。

#### 事務局員

教員の年齢層ですが、全道的に若手が多くなっています。特に都市部以外の高校では顕著です。保護者よりも年齢が若いという現状があります。ただ、教員については若くても、年を重ねてもやるべきことは変わりません。年齢よりも取り組みや意識なのかと感じています。運営協議会からも若くても頑張っている先生方がいれば、PRしていただければと思います。

また、義務教育との連携面では、小中高でインターンシップの内容の重なりがありますので、変えていきたいとも思っています。英語教育や就業体験を通して、様々な人と分け隔て無く接することの出来る生徒づくりも重要であると感じています。知内町には就労として外国人の方々があります。日本語を話せると聞いています。

#### 委員

道外の他府県では外国人の労働力は地域の力になっています。コンビニエンスストア等でもよく見ます。

## 委員

ソクラテスマーケティングでは、実際に進んだ進路先から講師や生徒を招いたりするのはどうか。事業者に聞いていると、結局は入社して一から育てていかないとならないと話していることから、専門業者は専門の高校からのみとるわけではないそうです。

教員の進路に関するコーディネート能力を活かす必要性が求められています。

## 事務局員

まずは渡島4町をターゲットに調査、研修をしていきたいと思います。

## 委員

町研の中で「学びの充実検討委員会」という特別委員会が発足しました。その中の議論の1つとして、学習に対しての、幼小中高での共通な認識が大切であるという確認が出てきました。

高校が到達点の1つとして、小～中学校が現状を理解する必要性も出ました。連携と一言で言うのは簡単ですが、まずは各校種の現状をお互いを知るところからはじめています。小さなギャップや温度差を感じて、分かり合えることが重要だと認識しています。具体的には「学びのルール」に系統性があるといいということまでできています。

## 委員

小学校と中学校のルールという点では確かに保護者、生徒も含めて様々な違いがあり、混乱することがよくあります。上手くコーディネートができていくと不安の解消になるかと思っています。

## 事務局員

知内町商工会の女性部の皆様の協力により、知内町の食材を使って実演有りの実習を行っています。ふるさと調理実習という総合学習の時間です。総合学習という点では、次年度は1・2年生でインターンシップを実施するという事で大変かと思えます。

## 委員

例えば、とある高校では、インターンシップ先を自分で探して、選んで決めています。そのまま就職することもあるそうです。行くまでも交通費が出たり、自費であったりとまちまちだそうです。夏休みを利用して九州に行く生徒もいると聞きます。

## 委員

中学校でも東京の企業とコラボレーションして、見学旅行等を利用して就業体験をしています。

委員

町内で自分で企業を調べて、選べばいいのではないのでしょうか。

事務局長

2年生は次年度、海外見学旅行では語学交流をする予定です。

委員

進路について、なぜ国公立大学進学希望生徒がこんなに多いのか。すごいことですね。

事務局員

1年生時より、進学ガイダンスを継続してきた結果や成果です。

委員

なるほど。嬉しいことですね。学力の向上を目指している生徒と、学習支援員さんの協力で学習に取り組んでいる生徒の相乗効果を感じます。

事務局員

様々な生徒がおり、様々なニーズもあります。それぞれの指導にできるだけ隔たりがなく対応していきたいと思います。

次年度の総合学習（地域創生学習）について賛成が得られれば、実施していきたいです。次年度の本校の大きな柱の1つとしてよろしくお願いいたします。

今後、学校評価があり、送付いたしますのでご協力よろしくお願いいたします。

**【挨拶】委員**

今回も中身のある議論ができました。ありがとうございます。お疲れ様でした。